

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.15 2007年6月25日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 HP: <http://www.seikei-seminary.org/>
電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804 郵便振替口座 00190-1-85761 「聖契神学校」

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。雨の少ない梅雨のさなか、朝7時前後に正門を開けると、玄関前のハイビスカスが毎朝二つ三つ、大輪の花を咲かせています。去年は寒さに負けて葉を落としたのに、今年は屋外で越冬し、一段と立派な木に成長。沖縄出身の園芸主任も卒業年度に入ったので、そろそろ地面に下ろしたほうがいいかもしれません。たった一日咲いて、夕方になると花を閉じる謙虚さに、主のメッセージを感じます。

「人の日は、草のよう。野の花のように咲く。・・・しかし」 (詩篇103:15-16)

校長 関野祐二

● にぎやかになりました

7名を送り出し、14名をお迎え。2007年度は総勢53名の在校生でスタートしました。例年にも増してバラエティに富んだ新入生の面々。吹き込んだ新風を、何色にたとえたらよいか、ちょっと悩みます。定年後を主のためささげたい、子育てが一段落したので学びたい、仕事を辞めフルタイムで学びに専念したい、とにかく1科目でも学びたいなどなど、動機は多種多様。そうこうしているうち、二ヶ月もすれば、みな「聖契色」に染まってくるから不思議です。それは、学校側が上から語る枠とか理念ではなく(それはそれでたいせつなのですが)、ひとりひとりが主にお仕えする輝き(「地上の星」?)の総合色。神学校はそれをサイド支援するだけです。いわゆる「訓練」が、福音の豊かさから乖離した形骸化に陥らぬよう、気をつけています。深い意味で「キリスト者の自由」を体現し、伝授していけばいいのです。この絶妙なバランス感覚と解放感(某クラスの学生より「異議あり!」の声)が「聖契色」と考えているのですが、さて?

● ソフトボール堂々3位!

5月14日(月)、2007年度神学校親善ソフトボール大会が、東村山運動公園で、6神学校9チームの参加のもと行われました。今年は、試合三日前に聖契神学校近くの公園で入念な練習をするほどの熱の入れよう(本番で疲れが出るパターン?)。試合は3グループに分かれ、予選リーグ二試合を戦います。Bグループは聖契、宣教会B、東京聖書学院の三チームが各々対戦しました。わが聖契チームは、第一試合目に宣教会Bと対戦。一回の表、F投手はランナーを出すも0点で抑えます。その裏の聖契の攻撃で強力打線が爆発、相手チームに猛打を浴びせ、一挙10点を入れ、この時点でコールドゲームとなり勝利しました。正に、聖契の勇士、「望上を駆け巡る」で、そんな勇姿を観た相手チームからも、「聖契ってこんなに強いのか?」との声が洩れるほど・・・。

続く二試合目は、東京聖書学院との対戦。一回の表に、F投手が猛攻を受けて5点を失い、これは手ごわいと、ベンチに緊張が走ります。しかしその裏、聖契の強力打線は相手投手のボールを捕らえ、好球必打に徹して猛攻撃を開始。ヒットと長打でつないで、今度は一挙に11点を入

れ、この時点で試合開始後 30 分を経過したため、試合終了で勝利しました。

さて、午後からの決勝トーナメントで、強豪宣教会 A と対戦。相手投手のスピードボールを打てず 8 対 0 で惜敗。その後、中央聖書学院との三位決定戦となり、わが聖契チームは 9 対 4 で勝利し、ここに堂々と三位の栄冠を獲得したのでした。けがもなく無事帰還した家内の姿を見れば、上から下までホコリまみれ。他校選手は誰も、校長夫人 & 事務員とは気づかなかったでしょうね。

● ついにシャワーと浴室完備

またまたシャワーとお風呂の話。春休みをとうに過ぎ、四月下旬ようやく完成しました。それもこれも、既存施設へ巧みに（無理やり？）設置した難工事ゆえです。女子寮は〇〇〇を二つ減らしてユニットシャワーを入れたのですが、そのままではあまりに見栄えが悪いので、化粧板で覆ったり、壁紙やクッションを張ったり（昨年設置の男子寮は、まさにユニットを置いたまま。床丸出し配管むき出し。ゴメンナサイ）。この 4 月、ついに満室となった女子寮ですが、これから迎える夏、少しは快適になりそうですか？ 学びもはかどるといいですね（チクリ）。

1 階の浴室工事は、旧厨房通用口を風呂場に改装する奇抜なアイデア。狭い空間をいかに活用するか、それこそ現場で業者の方と毎日打ち合わせです。特に、洗い場と脱衣場をシャワーカーテンで仕切るか中扉をつけるかで困窮し（場所が階段下で天井が斜めのため）、結局は大工さんに無理を言って特注の中扉を設置。お金はかかりましたが、なかなかの設備ですよ。どうです？

ところで、3 月に卒業した A 兄が、卒業式の翌日から校内の塗装を一手に引き受け、黙々と作業を続けてくださっています（1 階浴室内部も）。プロ顔負けの腕前に、お風呂業者も関連業者と見間違ふほど。卒業生との、こんなステキな関係はまさに宝ですね。

● 来年度の目玉と、パイロット訓練と

後期の履修届けは例年夏休み前に提出をお願いしていますが、それに合わせ、来年度カリキュラムも、6 月下旬の理事会を経てこの時期に確定するようにしています。本校のシステム上、先を見通しながらどの科目を履修するか決定する必要があるからです。来年度の目玉は、新設科目の基礎科「中間時代」（井上誠先生）、専門科「教理史」（丸山悟司先生）、いずれも歴史神学部門です。較べても仕方ないのですが、他校にあって本校になかった重要科目。卒業生教職試験の際にハンデとなるケースがあったので、これにより改善されるでしょう。いずれも四十代（あれ？）の教師ですので、エネルギーも充実し、ばっちり着々とクラス準備を続けている様子。

余談ですが、担当している聖書解釈学クラスでは、最近「飛行機」が流行っています。解釈演習として説教原稿を求めるのですが、まとめと適用に難儀するケース続出。これを称して「胴体着陸」「空港間違い」はたまた「ダッチロール」「機影が消えた」！？（先日、「墜落してます」のコメントを誤って「墮落してます」と書き、慌てて修正）。現場で乗客が不安にならぬよう、せめて危険操縦は神学校のうちだけにしてくださいね。みことばのナイスランディングを目指して！

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 4 月から新たに学びを開始した、正規生 7 名、聴講生 7 名、編入生 7 名の学びと生活が特に支えられるように。在校生の夏休み（7 月 22 日～）と後期授業が守られるように。
- ・ 神学校が学びの充実と教師研鑽、交わりと霊的成長、運営や経済的満たし等の各面で支えられるように。学生と教師の健康、霊性、教会奉仕、家族や働きが支えられるように。